

(参考様式5 ; HP公開様式)

(提出必要 ; 電子ファイル)

政務活動費の調査研究に係る海外調査、宿泊を伴う県外調査の概要

1 題目 : 自由民主党新緑の会 政務調査

2 調査報告概要

調査者 会派名等	[会派名、調査者全員の氏名] 会派名 : 自由民主党 新緑の会 調査者 : 流石恭史、臼井友基、桐原正仁、長澤健、小沢栄一、伊藤毅、 寺田義彦、望月大輔、渡辺大喜
調査内容	1 調査目的 本県の行政課題である「水素エネルギー」「ワンヘルス事業」に関する取 り組みについて、他の地方自治体が行う事業の視察、調査、意見交換を行い、 本県の施策に活かす。 2 調査テーマ ○環境エネルギーの活用について ○ワンヘルス事業について 3 調査期間 令和5年12月20日～令和5年12月21日 (1泊2日) 4 調査地 [海外→国名・都市名]・[国内→都道府県名・市町村名] 福岡県福岡市

3 調査テーマ毎の調査項目と選定理由

[調査テーマ] 環境エネルギー の活用	[調査項目] 水素エネルギー都市プロジェクト [選定理由] 下水処理工程に発生する下水バイオマス有効活用の事例を学ぶため に選定した。
---------------------------	---

	<p>[調査結果の活用方針]</p> <p>福岡県福岡市の取り組みである福岡市水素リーダープロジェクトを視察に伺い都市型水素のチャレンジとして市民に身近な水素をスローガンにした取り組みで、下水を利用し下水処理工程に発生する下水バイオガスを有効活用している。</p> <p>バイオガスを水素製造装置で処理し圧縮、蓄圧することにより、1日にFCV60台分の水素ガスを作っている。またFCモビリティの開発、導入もトヨタ自動車やCJPTと連携して行っている。水素で走行するバスや給食配送車を開発しており、今後はパッカー車や救急車の開発も行うなど市民生活への水素実装に向けて水素パイプラインなどを整備するなど将来的には需要と供給の創出と社会需要性の熟成を目指すなど山梨県にも活用が出来る要素があるためさらに調査を進めていきたいと考えている。</p>
<p>[調査テーマ]</p> <p>ワンヘルス事業</p>	<p>[調査項目]</p> <p>ワンヘルス事業</p> <p>[選定理由]</p> <p>福岡県では、①人の健康、②動物の健康、③環境の健全性をひとつと捉え、一体的に守っていく取り組みを行っている。福岡県がワンヘルスの世界的先進地となることを目指し、世界トップクラスの研究者が集う拠点を整備し、国際会議などを通じてワンヘルスに関する取り組みを展開していることから、調査テーマ・調査地として選定した。</p> <p>[調査結果の活用方針]</p> <p>進行感染症の脅威等の課題に対応する拠点の整備、ワンヘルスに関する先進的な調査・研究や専門人材の育成等について調査を行った。</p> <p>福岡県は、全国で初めて「福岡県ワンヘルス推進基本条例」を制定している。この分野の先頭に立つ自治体の取り組みに触れ、本県の事業として活用できる具体的な内容について、今後も調査研究を継続する。</p>

4 調査項目に係る調査都市・施設・担当者等の選定

調査項目	都市（市町村）名・施設名・担当者名及び選定理由
環境エネルギーの活用	<p>[都市（市町村）名・施設名・担当者名] 福岡県福岡市 経済観光文化局 創業・立地推進部 水素推進担当</p> <p>[選定理由] 福岡市水素エネルギー都市プロジェクトでは、下水バイオガス水素エネルギーの活用に取り組んでいるとともに、環境整備を推進し、各関係機関がそれぞれの役割を担い、全国的にも様々な社会課題を最先端の技術導入による課題解決に取り組んでいるため選定した。</p>
ワンヘルス事業	<p>[都市（市町村）名・施設名・担当者名] 福岡県 保健医療介護部 保健医療介護総務課ワンヘルス総合推進室室長 ワンヘルス推進係長</p> <p>[選定理由] 福岡県は、ワンヘルス、「人と動物の健康と環境の健全性は一つ」と捉え、人獣共通感染症、生物多様性の損失、地域温暖化といった人、動物、環境の各分野に関連する課題を解決する取り組みを行っているために選定した。</p>

5 調査内容

○調査テーマ：環境エネルギーの活用

調査項目	水素エネルギー活用への取り組み		
調査都市等	福岡県福岡市 福岡市役所経済観光文化局創業・立地推進部水素水新担当	調査日	12月20日

調査結果概要	<p>福岡県福岡市の取り組みである福岡市水素リーダープロジェクトの視察。</p> <p>都市型水素として、「市民に身近な水素」をテーマとしたプロジェクトであり、下水を利用し下水処理工程に発生する下水バイオガスをエネルギーとして有効活用している。</p> <p>バイオガスを水素製造装置で処理し圧縮、蓄圧することにより、1日にFCV60台分の水素ガスを作っている。また、FCモビリティの開発、導入についても、トヨタ自動車やCJPTと連携して行っている。水素で走行するバスや給食配送車も開発しており、今後はパッカー車や救急車の開発も計画されている。水素の実装に向けて、水素パイプラインを整備するなど、将来的に水素の需要と供給の創出を目指すなど山梨県にも活用出来る取り組みが数多くあったことから、今後もさらに調査研究を進めていきたい。</p>
--------	--

調査項目	ワンヘルス事業		
調査都市等	福岡県福岡市 福岡県保健医療介護部保健医療介護総務課ワンヘルス総合推進室 室長 ワンヘルス推進係長	調査日	12月21日
調査結果概要	<p>新興感染症の脅威等の課題に対応する拠点の整備、ワンヘルスに関する先進的な調査・研究や専門人材の育成等について調査を行った。</p> <p>福岡県は、全国で初めて「福岡県ワンヘルス推進基本条例」を制定している。この分野の先頭に立つ自治体の取り組みに触れ、本県の事業として活用できる具体的な内容について、今後も調査研究を継続する。</p>		

○各参加者の所感及び調査結果の活用方針

議員氏名	所感及び活用の考え方
流石恭史	<p>下水バイオガス水素ステーションは、水素社会の実現に向けて、需要と供給を高めながら福岡市水素リーダー都市プロジェクトを推進しており、都市型水素のチャレンジに市民啓発や理解促進を進めている。山梨県でも取り入れていけるように提言を行っていきたい。</p>

<p>臼井友基</p>	<p>福岡市では生活排水（下水）を処理する過程で発生するバイオガスから水素をつくり、燃料電池自動車にエネルギーを供給している。一方で、山梨県では太陽光発電の余剰電力を使用した CO2 フリーの水素製造（P2G システム）の実証研究が行われている。</p> <p>他県での取り組みを参考にしながら新たな需要と供給を創出し、自然豊かな本県に親和性のある水素エネルギー社会の実現を目指していきたい。</p>
<p>桐原正仁</p>	<p>福岡市では、下水を原料に水素を製造し、エネルギーの地産地消を図る取り組みが行われている。製造した水素を隣の水素ステーション（水素スタンド）で燃料電池車の燃料として利用されている。また、福岡市はFC（燃料電池）の普及活動を行っていて、ムービングカー（燃料電池車：外見はバス）水素で走行はもちろん発電、給電システムを備え、イベントで活用していたり、パッカー車のFCなど、公的車両への導入を進めたりしている。</p>
<p>長澤健</p>	<p>生活排水から水素を製造しFCV等へ供給する世界初の水素ステーションは、山梨県にも導入を促進したい。</p> <p>水素ステーションの建設には高額な工事費がかかるので、民間業者と連携協定を締結する等、山梨県も模索すべきと考える。</p> <p>給食配送車、ごみ収集車が水素で運行しているが、給電もできるシステムは災害時に活用できるのとのことであった。</p>
<p>小沢栄一</p>	<p>福岡市では、水素社会の実現に向けて、水素エネルギー関連産業の振興を目的とした「福岡市 水素リーダー都市プロジェクト」を推進しており、市民の生活排水（下水）から水素を製造しFCV（燃料電池自動車）等へ供給する「世界初」の水素ステーションを、2015年に開設しました。</p> <p>水素の需要創出に向け、行政が率先して水素車両の導入を進め、2022年にはトヨタ自動車と連携協定を締結し、下水バイオガス由来の水素ステーションの運営を民間事業者とともに運営行い、トヨタ自動車の水素燃料自動車ミライのほか、バスや給食配送車の開発など、さまざまなFC（燃料電池）モビリティの導入促進に取り組んでいます。</p> <p>山梨県においても今後の可能性を感じる研修でありましたので、引き続き研究をしていきたいと思えます。</p>

伊藤毅	<p>福岡市水素リーダープロジェクトの視察に伺った。</p> <p>市民に身近な下水を利用し、下水処理工程に発生する下水バイオガスを有効活用している。</p> <p>バイオガスを水素製造装置で処理し圧縮、蓄圧することにより、1日にFCV60台分の水素ガスを作っている。今後は市民生活への水素実装に向けて水素パイプラインも整備する。</p> <p>将来的には需要と供給の創出と社会受容性の醸成を目指し取り組みを進めている。</p>
寺田義彦	<p>福岡市では、水素社会の実現に向けて、水素エネルギー関連産業の振興を目的とした「福岡市 水素リーダー都市プロジェクト」を推進しており、水素の需要と供給の両方を拡大するため、さまざまな取り組みを行っていた。山梨県においても、水素社会の実現に向けた取り組みを行っていることから、水素ステーションやパイプラインの設置等、水素実装の先進事例は大変参考になった。</p> <p>また、水素燃料電池の製造については、山梨県が水電解による水素生成アプローチであるのに対し、福岡市においては市民の生活排水（下水）を利用したバイオガス由来の生成アプローチであった。異なる様々なアプローチによって、水素社会の実現がより推進されることに大きな期待を抱くことができた。</p>
望月大輔	<p>下水からの汚泥処理で水素を発生させる施設として2015年から運用を始めている。特にステーションからの水素をモビリティサービスや給食配送者、救急車への燃料にも展開するなど市民サービスへの還元として活用されていることが実際に行われている。まさに山梨県が牽引する水素社会への実現に向けて地産地消のモデルケースと言える。</p>
渡辺大喜	<p>福岡市では市民に身近な下水を利用し、下水処理工程で発生するバイオガスを有効活用している。バイオガスを水素製造装置で処理し、圧縮・蓄圧することにより、1日にFCV（燃料電池自動車）60台分の水素をつくっている。また2015年には世界初となる水素ステーション開設した。</p> <p>市民の水素利用促進のため、市と民間事業者が協働で水素ステーションの運営を行い、トヨタ自動車との提携を図るなど、行政が率先し</p>

	<p>てFCVの普及に取り組んでいる。</p> <p>製造工程は異なるが山梨県においても水素事業には力を入れている。県民への利用促進や企業への販売に向けて参考にし、引き続き研究していく。</p>
--	---

調査テーマ：(地域振興)

議員氏名	所感及び活用の考え方
流石恭史	<p>ワンヘルスという考えは地球上での人口増加、森林開発や農地化などの土地利用の変化これに伴う自然環境の悪化や地球温暖化などの気候変動の影響が生じるため、地球環境の保全の推進に力を入れている。</p>
臼井友基	<p>「ワンヘルス」は人・動物の健康と環境の健全性を一つの健康と捉え、一体的に守っていく考え方である。</p> <p>例えば新型コロナウイルスをはじめ多くの感染症は動物が関与している可能性が高く、問題の解決には人・動物・環境分野の関係者が分野横断的に連携することが欠かせないと思われる。</p> <p>本県 CDC にワンヘルスの考えを取り込むことで、知事の掲げる超感染症社会の実現に近づくのではないかと考える。</p>
桐原正仁	<p>福岡県「ワンヘルス事業」は、県が推進する人間、動物、環境の健康を一体的に考慮した公衆衛生戦略の一環で、この取り組みは、様々なセクター間の連携を促進し、地域全体の健康と安全を守ることを目的としている。この事業は、具体的に感染症の予防や薬剤耐性菌の対策、環境保護、食の安全、動物愛護など幅広い分野で展開されている。令和4年度の福岡県ワンヘルス推進行動計画においては、医療や獣医療、環境科学など多様な分野が連携して、人獣共通感染症の予防や環境との調和を図る取り組みが実施された。これには、薬剤の適正使用を推進することや、自然環境の保全を図ることなどが含まれている。市町村における取り組みは、令和3年筑後市議会から始まり、11市町村議会でワンヘルスの推進に関する議決が行われ、また、ワンヘルスの推進に関する宣言は、23市町村が行い、ワンヘルス推進の動きは県内に広がっている。</p>

長澤健	<p>「人の健康」「動物の健康」「環境の健全」を一体的に守っていくという考えをいう。近年、新型コロナウイルスや、鳥インフルエンザなどの「新興感染症」が蔓延しているが、今後も、新たな病原体が蔓延するかもしれない。</p> <p>今後もウイルス、細菌などに寄生される生き物への対策が必要だが、これは、国をあげての施策として取り組むべきではないか。</p>
小沢栄一	<p>ワンヘルス (One Health) とは、世界で起きている様々な課題として、増え続けるウイルス性の感染症・食料問題・森林破壊・地球温暖化・bushmeat (野生動物から得る食肉) の消費から発生する「人獣共通感染症」等に対し、次なるパンデミックへの備えとして「人の健康」「動物の健康」「環境の健全性」を一つの健康と捉え、一体的に守ろうという取り組みです。</p> <p>私たちが健康に暮らしていくためには、地球に暮らす命と健康、動物と環境の健康を守り、健康な地球を次世代の子ども達に引き継いでいき、地球自身も健康である必要があります。</p> <p>福岡県では2016年に医師と獣医師が協力して取り組む「福岡宣言」、2022年には「アジアワンヘルス福岡宣言」がされました。森林面積が8割の山梨県においても取り組みが重要であると考えます。</p>
伊藤毅	<p>福岡県がワンヘルスの世界的先進地となることを目指し、人の健康や動物の健康さらには環境の健全化を一つと捉え、次なるパンデミックへ備えるため、世界トップクラスの研究者が集う拠点を整備し、国際会議などワンヘルスの取組を実践している。県民の命と健康、動物と環境の健康を守り、健康な地球を次世代の子ども達に引き継いでいく取り組みである。</p>
寺田義彦	<p>「ワンヘルス (One Health)」とは、「人の健康」「動物の健康」「環境の健全性」を一つの健康と捉え、一体的に守っていくという考え方であり、近年、国際的な広がりをみせている。福岡県では、医師会、獣医師会をはじめ、官民一体となって、6つの基本方針に基づき、このワンヘルス推進の取り組みを行っている。人が健康に暮らしていくためには、地球に暮らす動物、そして地球自身も健康である必要があるということを再認識するとともに、本県の施策にも積極的に取り入</p>

	<p>れていくべきと感じた。</p>
望月大輔	<p>感染症を経験した我々人類が、ワンヘルスという旗印の下で、世界のモデルケースとして横軸の政策や体制づくりについて、今後の共通課題として設定していくことはとても有意義なものと考えます。山梨県でもこの事業は動物、自然環境を十分に活かせる立地にある中でモデルケースとして牽引していけると考えられる。</p>
渡辺大喜	<p>ワンヘルスとは①人の健康、②動物の健康、③環境の健全性を一つの健康ととらえ一体的に守ろうという考えである。環境破壊や地球温暖化が進行する中で人獣共通感染症が増え続けている。福岡県では次なるパンデミックに備え、ワンヘルスに関わる研究者が集まる国際フォーラムや啓発施設の整備や教育に取り組み、ワンヘルスにおいて世界でも先進的な取り組みを行っている。</p> <p>人獣共通感染症は、野生動物を食用とする、アフリカや南米地域に多いが、日本、山梨県においても他人事ではない。SDG s の観点からも重要であり、わが県においても取り組みが必要である。</p>

6 調査状況 (写真)



令和5年12月20日 (福岡県福岡市)
福岡市役所 水素エネルギー



令和5年12月20日 (福岡県福岡市)
福岡市役所 水素エネルギー



令和5年12月20日 (福岡県福岡市)
水素ステーション



令和5年12月20日 (福岡県福岡市)
水素ステーション



令和5年12月21日 (福岡県福岡市)
福岡県庁 ワンヘルスについて



令和5年12月21日 (福岡県福岡市)
福岡県庁 ワンヘルスについて